



すみよし

2008 年 クリスマス号
第176号

聖句

恵み深い主に感謝せよ。

慈しみはとこしえに。

大きな光を造った方に感謝せよ。

慈しみはとこしえに。

詩篇 136-1, 7



[目次](#)

《 馬小屋の洗礼式 》

赤波江 豊神父

10 数年前の年末、ある神父様から電話をいただきました。

「ある女性の信者さんの弟さんが危篤だ。その信者さんは最初、別の教会へ行っていたが、そこは神父さんが不在だった。それでその教会の事務の方が自分のところへ電話してきたが、自分もあいにく用事があって行けない。その弟さんは信者ではないが祈ってあげてほしい。」というものでした。

それで急いで病院へ行ってみましたが、その人はもう意識がなく、誰の目にももう時間の問題かと思われました。その人のために祈りをささげたあとで、お姉さんがその弟について話してくれました。

「弟は元来、非常に正直で純粋な人でした。でも、あまりにも純粋すぎて若い頃人間関係につまずいて分裂症を患ってしまい、そのため結婚もできず 64 歳になる今まで病気の連続でした。でも弟は若い頃聖書を熱心に読んだり、よく御絵を飾って祈ったりしていました。」

その言葉を聞いて、信者でもない弟の最後のため、祈ってほしいと神父を探しまわったお姉さんの愛情と、純粋なゆえに生涯十字架を背負わなければならなかったこの人の人生を、神に最後に祝福してほしいという思いが、私の心の中に静かに響いてきました。

そして自分がここに來たのは決して偶然ではないような気がしました。熱心に聖書を読んでいたからには、この人の上に神の導きがあったに違いない。そう思って臨終洗礼を授けることにしました。

でも突然のことですから何の用意ありません。十字架もロウソクも祭服も花も何もあります。あるのは水だけです。でもそれで十分です。お姉さんと一緒に信仰宣言を唱えてコップに水を注いで、それで洗礼を授けました。実に何の飾り気もない簡素な洗礼式でした。

洗礼を授けた後、それまでの苦しそうな様子が少し穏やかになったような気もしました。そして、もし亡くなったら連絡下さいと言って私はそこを去りました。しかし何日たっても連絡がありません。気にかかって電話をしたところ、弟さんは洗礼の後少しずつ回復し、反応を示すようになったそうです。そして数日後、はっきりと意識も回復しました。

神は本当にこの人に目をとめてくださいました。不思議なこともあるものです。肺の機能はまったくないのに、何で生きているのかわからないと医師も不思議がっていました。その後訪問するたびに、彼はいつも純粋な笑顔で私を迎えてくれました。しかし、この人には最後の試練が待っていました。終わりの頃には苦しさがつり、笑顔も次第に消えていきました。いよいよ十字架のイエスにあやかっただけでしょう。

最後に病者の秘跡を受けて数日後、彼はついにその生涯を父なる神のもとへ返しました。

洗礼を受けた後、実に 13 ヶ月間奇跡的に命を長らえたのでした。教会で彼のことを知っていたのは、ごく僅かな人です。そのためか彼の葬儀ミサは参列者も非常に少なく実に静かなものでした。しかし私自身は何か心満たされるものでした。

今思えば、キリストが貧しい馬小屋でお生まれになったように、彼のキリスト者としての誕生も何の飾り気もない病室であり、その意味で馬小屋の洗礼式でした。純粋なゆえに生涯十字架を負わなければならなかった彼の人生を、父なる神が永遠の生命へと変容してくださるように。



《目次》

☆ <u>聖句</u>		2
☆ <u>馬小屋の洗礼式</u> 赤波江豊神父		3
☆ <u>目次</u>		5
☆ <u>クリスマスの祈り マザーテレサ日々の祈りから</u>		6
☆ <u>待降節黙想会</u> 吉岡秀紀神父		7
☆ <u>「ペトロ岐部と 187 殉教者」列福式に参加して</u>		9
☆ <u>聖パウロ三木の教会へようこそ</u>		12
☆財務から皆様へ		(12～13)
☆ <u>平和旬間「平和のいのりの集い」</u>		13
☆ <u>敬老のお祝い</u>		14
☆ <u>「セニョール・デ・ロス・ミラグロス」</u>		15
☆ <u>祈念祭</u>		16
☆ <u>鶴島巡礼に参加して</u>		16
☆バザーに向けてのタイ料理講習会		(22)
☆七五三おめでとう		(23)
☆バザー		(24～26)
☆地区集会		(27～29)
☆ <u>本の紹介</u>		18
☆信徒動静・教会日誌		(30)
☆ <u>後記</u>		19

題字：千葉健吉
表紙画：南浮由美子

太字はこのホームページ掲載 PDF ファイルのページ、カッコつきは原本のページです。

《クリスマスおめでとうございます》

12 月 25 日

クリスマスの日、

私たちは、

か弱く、貧しく、

幼い乳飲み子としてのイエス様を見ます。

彼は、愛し、愛されるために来られました。

私たちは今日の世界で、どのようにして
イエス様を愛することができるのでしょうか？

私の夫に、私の妻に、

私の子どもたちに、

私の兄弟や姉妹に、

私の周りの人たちに、

そして貧しい人たちの中におられるイエス様を、

愛することによってできるのです。

さあ、ベツレヘムの

貧しい飼い葉桶の周りに集いましょう。

そして、私たちが日々出会う

すべての人の中におられるイエス様を

愛することを固く決心しましょう。

2008 年クリスマス 「マザー・テレサ 日々のことば」 から



[目次](#)

待降節黙想会

【ク リ ス マ ス】

11 月 30 日

講話 吉岡 秀紀神父様（兵庫教会）

初めの祈り

主よ、あなたはこの待降節の初めにあたり、目を覚ましていなさいとみことばを与えてくださいました。

私たちがあなたがこの世に来て下さったことの意味をしっかりとこの待降節の間に受け止めていく為に、いつも目を覚まし心に向けていくことが出来ますように。

あなたが大切になされた人と人との出会い、交わりの中で、あなたと出会うということをお私たちに気づかせて下さい。



☆クリスマスはイエスの誕生日？

イエスの誕生日は正確には分からない。聖書の中で一番古いマルコ福音書はイエスの洗礼の話で始まるが、そこにはマリア、ヨゼフの家族の名は出てこない。

12 月 25 日はもともと BC1～5 世紀に勢力を持ったインド古代のミトラ教の冬至の祭りの日であった。（のちにキリスト教が取り入れる）。

日本では 1552 年に山口県周防で宣教師たちが祝ったのが最初とされるが、その後江戸時代の迫害の時期にすたれ、1920 年頃教会とは関係なく商店のキャンペーンのような形で広まって日本にも定着した。

☆イエスの示されたもの ― それは愛

イエスがかよわい幼子の姿で生まれたことは大きな意味がある。それは無力であるということ。だれかが手をさしのべて助けないと生きられない。生物としてではなく人間として人は一人では生きられない。人を大切にする。それが愛。

- ・イエスは誰をも切り捨てず、自分を排除しようとした人(敵)をも受け入れた。
- ・たかとり教会の大勢のベトナム人信徒も文化の違い、考え方の違い、言葉の違いを越えて、同じ人間として認めあいつながっている。
- ・井戸の水を汲みにきたサマリアの女に決してあきらめず、分かるまで話しかけるイエスの姿も同じ。

☆イエスに会う

私たちは弟子たちのようにイエスに会うことは出来ないけれど、今自分の目の前にいる人の中にいるキリストと会うことが出来る。

夜回りに行くと、形としては持っている側、あげる側に立つけれど、決して施すという気分にはなれない。1 人の人間として悩み、苦しむ姿はイエスも同じ。天の父に一人で祈る姿がある。慰め、いやしを求める姿は人間のもの。人と会うことがイエスと会うこと。私はイエスに出会いに行っている。

☆小さいけれどゼロではない

イエスの幼子としての誕生は「人は愛されなければ、大切にされなければ生きられない存在である」ことを示している。

私たちが一人ひとり出来ることは小さいけれど、何かするとしないでは全然違う。やらないことはゼロ。微力ではあっても無力ではない。

何事に対しても決してあきらめずに立ち向かっていったイエスの生き方にならって、今何が出来るか、何を差し出すことが出来るかに思いを深めてよい待降節を過しましょう。そこに「生かし生かしあうクリスマス」を祝う意味がある。

クリスマスは人が互いに愛を示しあうことの大切さに気づいたことを
記念する日

2008 年クリスマスチャリティーコンサート メッセージより

(編集部)

《「ペトロ岐部と 187 殉教者」列福式に参列して》

TK

「ペトロ岐部と 187 殉教者」列福式が 11 月 24 日(月)、ローマ教皇庁主催で長崎市内の県営ビッグ N スタジアムで挙行され、家内と参列しました。概要はカトリック新聞に掲載されていますが、列福式のミサや、当日の感動、前夜祭(ビジリア)の長崎の様子などを報告します。



列福式のミサは、国内外から約 3 万人の信徒が参列し、雨の中を正午から、数百人の司祭団、司教団や海外の司教様方、ローマ教皇庁関係者の方々が、約 30 分かけて入場し、聖遺物の顕示台、ろうそく、殉教者ゆかりの各地の土が祭壇に安置され、白柳誠一枢機卿様の司式でミサが開祭されました。諸教派、諸宗教の代表者も臨席されました。

ミサの中で「回心の祈り」、「あわれみの讃歌」に続いて「列福の儀」が始まりました。まず、「列福宣言の要請」では、日本カトリック司教協議会会長の岡田武夫東京大司教様が「1603 年から 1639 年に殉教した 188 人の尊者を福者の列に加えてくださるよう」要請しました。教皇庁列聖省列福申請者フェルナンド・ロホ神父様が殉教者の全体像を紹介し、続いて殉教者ゆかりの九教区の司教様方により、その地の「殉教者の略歴紹介」が行われました。教皇代理のジョゼ・サライバ・マルティンス枢機卿様(前教皇庁列聖省長官)により教皇ベネディクト十六世の「教皇書簡の朗読」が行われ、「ペトロ・カスイ岐部司祭と殉教者である尊者を福者の列に加える」旨の「列福宣言」が厳かに行われました。殉教者の肖像画が除幕され、百八十八羽のハトが空に放たれました。その後、岡田大司教様が同枢機卿様に謝辞を述べられました。閉祭にあたり、同枢機卿様から「教皇代理メッセージ」があり、その中で「いつか彼らが聖人に名を連ねるよう願っています」と述べられました。続いて、列聖列福特別委員会委員長溝部脩高松司教様の謝辞があり、4 時間近くにわたる列福式のミサは大きな感動と感謝の内に無事終了しました。ジョゼ・サライバ・マルティンス枢機卿様は参列の信徒に祝福を与えながらゆっくり退場されました。

式前日の 23 日(日)は長崎市内の浦上・城山・大浦・二十六聖人の各教会で前夜祭(ビジリア)の「祈りの集い」が 16 時から 21 時までほぼ 1 時間毎に行われていました。長崎到着後、私たちはまず二十六聖人記念館を訪ねました。記念館のあと、中町教会を訪れ、17 時のミサにあずかりました。司式は築地教会の川口薫神父様でした。

24 日の列福式当日は、朝早く雨の中を 9 時半過ぎに会場に到着しました。大阪教区の指定席は右翼側外野席でした。池長大司教様が大阪教区の席まで上がって来られ信徒の皆さんと親しく挨拶を交わされました。また、1 階の会場入口では、東京大司教区の幸田和生補佐司教様にお会いしました。「ここにいると多くの皆さんに会えると思って」とにこやかに話されました。しばらくしてグラウンドに赤波江神父様のお姿が見え、スタンドから手を振ってご挨拶しました。これらが前夜祭と列福式当日の様子です。

1981 年の教皇ヨハネ・パウロ二世の来日を機に、日本の司教團が列福運動を開始してから、結城了悟神父様をはじめ多くの関係者の努力で二十数年を経てようやく列福式を迎えられる事は、我々信徒にとり本当に大きな喜びです。禁教令の厳しい中で、多くの艱難を強い信仰とお互いの強い絆で支えあい、信仰を守り通した殉教者の尊い生き方が、その後数百年にわたり長崎をはじめ各地で受け継がれてきたことに、日本のカトリック教会の共同体の原点が宿っているように思われます。

日本の教会は今、「教会の刷新」が求められています。迫害や殉教が現実にはない現代で、188 人の福者に学び、信仰をどう強めていくか、どのようにしてよりよい教会共同体づくりを進めていくかという問題を、この列福式を機会に今一度真剣に考え、実際に実行していくことが求められていると思います。

列福式を迎えるにあたり、日本の教会はこの 10 月 5 日(日)から「列福をひかえ、ともに祈る 7 週間」で学び、考え、そして祈ってきました。教皇様は「列福宣言」で「この殉教者たちの記念日は、(中略)毎年 7 月 1 日に祝うことにいたします」と宣言されました。

今日からは日本の教会全体で「福者ペトロ岐部と一八七殉教者の取り次ぎを願いその列聖を求める祈り」を心合せて祈っていくことになります。188 人の福者の導きを頂きながら、よりよい教会共同体づくりに力強く進んで行きたいものです。



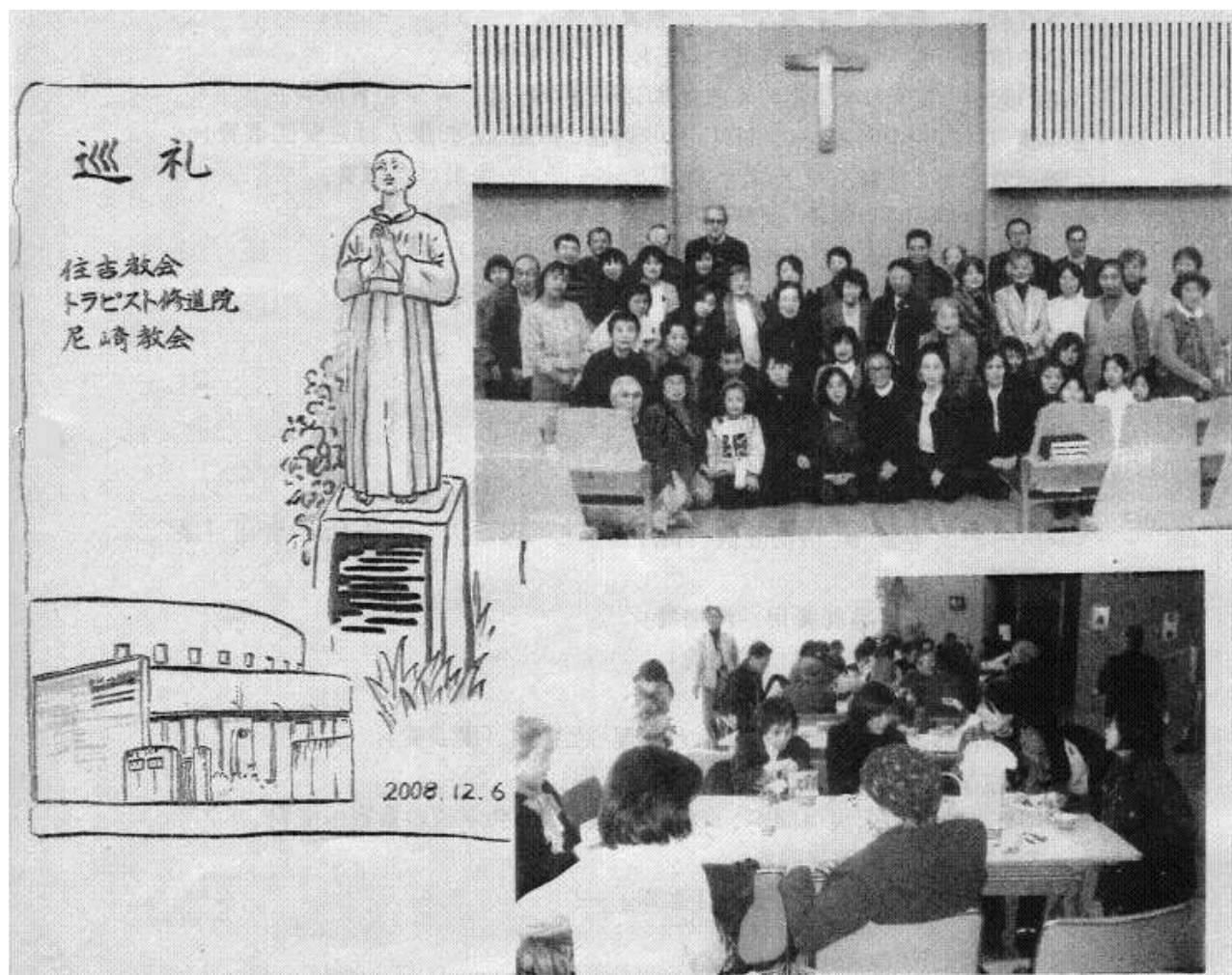
御準備いただいた長崎の皆様ありがとうございました

[目次](#)

《 聖パウロ三木の教会へようこそ 》

12 月 6 日（土）、カトリック千里ニュータウン教会の皆様が、住吉教会を巡礼でご訪問下さいました。今年はパウロ年・・・いろいろな方が巡礼に来られますが、今日のお客様は大型バスで A・ブルカルト神父様と信徒の方 49 名の多人数。

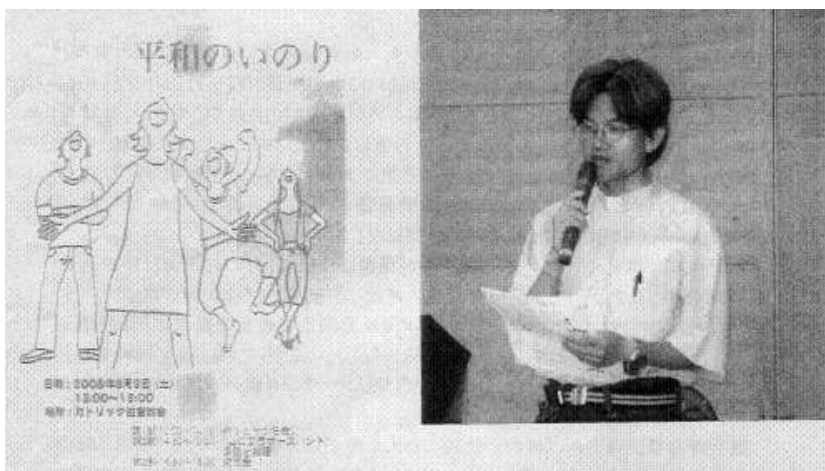
聖堂で、お祈り、聖歌を捧げられ A・ブルカルト神父様とお迎えされた赤波江神父様のお話を聞かれた後、住吉教会の震災時の様子や 2 年前に献堂された新聖堂の事、又、現在の教会活動の特徴は？などの質問があり、敷地内に近隣から 140 名の園児が通っている幼稚園がある事、教会学校は信徒、未信徒の子供達で 50 名程。その人数の多さは今の時代の教会学校としてはめずらしく、活動を大切に育てていきたい思い等が話されました。千里教会は、毎年信徒の行事として「教会バス巡礼」が計画され、今年はパウロ年に関する教会の中から住吉教会、トラピスト修道院(シトー会西宮修道院)、尼崎教会を回られるそうです。ホールでレジオ・マリエの方が用意されたお茶の接待で昼食の後、12 時半に次の巡礼地に向かわれました。



《平和のいのりの集い》

神戸地区宣教司牧評議会主催

平和旬間行事の一環として初めて神戸地区独自で取り組んだ「平和のいのり」の集いが、8月9日(土)午後1時から住吉教会で開催されました。神戸地区 11 教会で聖フランシスコの「平和を求める祈り」をそれぞれが分担したパートについて開催までの 2 ヶ月間、祈り、考え、その成果を各教会の取り組みとして発表し、教会ごとに作られた共同祈願は全員で唱えて思いを一つにしました。



第 2 部の「山口ブラザースバンド」の演奏が始まる頃には、住吉教会の聖堂がほぼ満席になり、若い人たちも大勢参加して、山口雅稔神父様(東京教区・赤羽教会)率いる 9 人編成のバンドの演奏に聴きほれました。その日はちょうど 63 年目の長崎原爆慰霊の日にあたり、家族をなくした方の詩が朗読されたり、メンバーのお一人の生い立ちを通して平和への願いを聞くことが出来ました。



山口神父様は「私たちはいつも選びに直面する。善いものと、悪いもの。私たちの選んだ道が平和へとつながるように」と話され、ご自身の作詞作曲による「平和のうた」「世界中に平和を」など 7 曲を熱演して、音楽を通して共に平和を祈り、キリストと共にその実現に向けて歩む姿を示されました。

[目次](#)

《敬老のお祝い》

9 月 14 日(日)、ちょうどこの日は「子供と共に捧げるミサ」の日にあたるので、住吉教会のこれまでを築いて下さった先輩方と、それを引き継いでゆく子供たちが「私も 70 歳以上の対象者」と資格者のシリロ神父様の司式で、同じ祭壇を囲み共に感謝し共に祈りを捧げました。

ミサの後、赤波江神父様が招待なさった『渚家六丸、つくし御夫妻』が敬老のお祝いに「楽しいひととき」をプレゼントしてくださる為に八幡市から来て下さいました。関大の落研で桂三枝さんの 3 年後輩でセミプロの六丸さんは、にわか作りの苦心の高座で新作落語「誕生日」を身振り手振りおかしく語って下さった後、つくしさんと掛け声、音頭もにぎやかに「さては南京玉すだれ」…玉簾は 56 本の玉(竹)で出来ており、発声は富山五箇山「こきりこ」。全国を菓売りで回りながら、路上で客寄せに演じた芸が原点だそうです。魚や富士山、橋や〇△…いろいろな形が思いのまま。演技の後、ホールで興味津々の子供たちに玉簾を手にとらせ、動かし方を教えて下さいました。茶話会で子供達手作りのプレゼントや、シスター作のクッキー等をいただきながら、共に主に守られている「今日一日」に感謝でした。

《敬老の日にささげられたお祈り》

命の与え主である神よ、
あなたは今日にいたるまでの日々を私たちに与えて下さいました。
私たちはあなたに賛美と感謝をささげます。
私たちはかつてまだ若かった頃、あなたを忘れ、あなたに背いてあやまちを犯したことも決して少なくありませんでした。
しかしあなたは私たちをいつもゆるしてくださり、深いいつくしみをもって、今日の日を迎えるまで私たちを導いて下さいました、
どうか私たちもあなたの愛にならって、他の人々、特に若い人たちが同じような過ちをおかしても、それをゆるすことができますように。
また私たちが他人をゆるすことによって、あなたの愛をこの地上にあかしすることができますように。
主イエス・キリストによって。アーメン。

《セニョール・デ・ロス・ミラグロス》

10 月 26 日(日)

今年もたくさんのお客様で、聖堂もホールも一杯になった「セニョール・デ・ロス・ミラグロス」・・・お国ではさぞ盛大にお祝いされるのですが、此処住吉教会では昨年同様、ミサに引き続き、奇蹟の主行列は教会の敷地内でのみ。あいにく小雨が降ったりやんだりでしたが、哀調のある音楽に合わせて、行列は静かに前庭から園庭を回りました。久しぶりに会った方々は、なつかしように積もる話の数々。

今年はミサの前にロザリオの祈りをした後、シリロ神父様がスペイン語で、その日の歌の練習をして下さいました。スペイン宣教会から来日中のハラシア神父様が、シリロ神父様と共にミサを捧げて下さいました。ハラシア神父様はジンバブエで 10 年間宣教なさった後、スペインに帰国、そして再びジンバブエで宣教を願っておられるが、今は政情不安で国に入れないとの事でした。お説教では信仰に大切な事は次の 2

つですと言われました。

①心をつくし、誠心をつくして神を愛する

②私達の兄弟姉妹、隣人を愛する

そして次の小さなお話をして下さいました。

アフリカのある小さな国の女の子、両親がいない貧しい子、きれいな店の中を覗きながら買えるはずもない品々を眺めて立っていた。じっとそれを見ていた店の人が、きれいな白い洋服と靴をプレゼント。驚いた女の子はその人に聞いた。

「あなたは神様？」

「いいえ、私は神の子どもです」

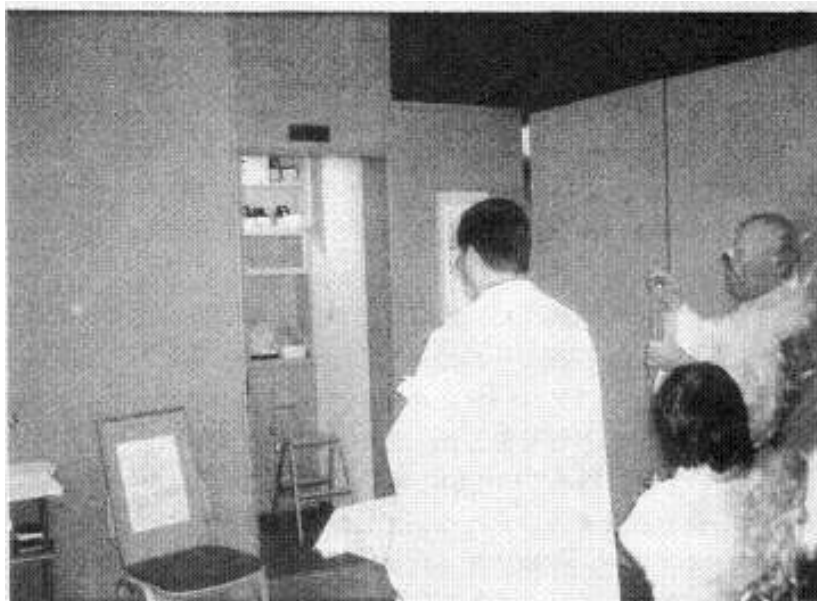


[目次](#)

《 祈念祭 》

11 月 2 日（日）

9 時半からのミサが祈念ミサとして捧げられ、今年亡くなられた方々のお名前が読み上げられました。（赤波江神父様の意向として、年一回の祈念の祈りだけではなく毎月初金曜日の 9 時半からのミサの中でも、死者の為に祈られています。）
亡き方々を祈念してお名前を記したカードも祭壇におかれ、祈念堂の扉も開けて、焼香の煙と共に祈りを捧げました。



《鶴島巡礼に参加して》

MT

赤波江神父様、KT さん、中央教会の高校生の O 君と私の 4 人は巡礼に参加のため、電車ではなく神父様の車で朝 6 時 30 分に住吉教会を出発しました。

13 年前に一度鶴島行きを計画しましたが行けずじまいになっておりましたので、念願叶って嬉しい旅となりました。岡山の日生(ひなせ)港に 8 時 45 分に着きました。受付は 9 時からでしたが、昨夜岡山教会から 40 km を歩いて来られていた 10 数名の方々と神父様 7 名、シスター、ブラザー合せて 130 名でチャーターして頂いていた船に乗り込み、30 分程で鶴島に着きました。

浜辺で簡単にお祈りと神父様方の紹介の後、ロザリオを祈りながらお墓のある高台まで山道を歩いて登りました。

岡山教会主催で今年で二十年連続巡礼に来られていて、準備万端整えられており、みななどお掃除をしてから御ミサが始まりました。海を見ながら殉教された方々を思いながらの御ミサはアコーディオンの伴奏で歌ったり、共同祈願を唱えたりと忘れられないものとなりました。港のそばの波打ち際の木陰で皆で持参したお弁当を頂いてから待っていた船に乗り、鶴島を後にしました。

[目次](#)

日生港のすぐ前の会館で殉教者の方々についての講演を聴いてから夕方 5 時半頃中央教会に帰って来ました。天候に恵まれ青い空と碧い海、島々の緑と本当に素晴らしい自然に出会えたこと、神さまと人々に感謝です。



鶴島、つるしま

岡山県備前市の日生諸島に属する無人島。

浦上四番崩れと呼ばれる長崎浦上のキリスト教弾圧の際に捕らえられたクリシタンのうち 117 人が 1869 年(明治 2 年)に岡山藩に預けられ翌年鶴島に送られた。1873 年(明治 6 年)に信教の自由が認められるまでに 18 人が死亡している。島の南東の斜面に墓地があり墓石や殉教者碑、十字架が建立されている。





《図書コーナーより》

◎目からウロコ「ミサのあずかり方」 来住英俊著 女子パウロ会発行

「日々の生活とミサを通して信仰を育てる具体的、
現実的な提案をしています」 本の帯より
十項目に分けて非常に分かりやすく述べられています。

第三章「ミサに出かけて行く」では「家から教会までの道のりを
ミサに向けて心を整えていく時間」とし、日本の神社の参道を
例にとって述べられていて興味深い内容です。

◎「生きるためのひとこと」 晴佐久昌英著 女子パウロ会発行

「人が誰でも、日常、何気なく、口にすることばを大切に話すことで、
間違いなく、大きな力に促されて生きる喜びが深められる」と書かれて
います。

読んでいるうちに、思わず笑ってしまう所が何ヶ所もありました。
気持ちが明るくなり、安心と勇気が与えられる本です。

[目次](#)

《後記》

世界も、日本も、何とか大過なく過ごす事が出来たこの一年、感謝の心で年末を迎えました。戦災や風水害、大震災などで何度か建て替えを余儀なくされた住吉教会でしたが、(今、幼稚園舎と共に、住吉宮町の一角に広々としたスマートな姿で建っております。)美しい聖母マリア様の御像と共に、次のジェネレーションにしっかりと受け継がれ発展してゆくことでしょう。

「すみよし」誌も信徒お互いの心のつながりとして末永く続くことをお祈りいたします。皆様お一人ひとりが心に残る御降誕祭と新年をお迎えになりますように。(木村)

夏の間、腎臓・糖尿で入院していた私。
再起できないと覚悟をしていました。十月に退院して『元気印』の旗を『降参』の白旗に持ちかえて、楽しい広報チームに戻ってきました。

生かされている限り、出来ることを続けたいと思うのです。年三回の「すみよし」の発行に集まる広報チームメンバーの平均年令も若くなりました。

書くことの好きな方、パソコン、印刷や製本の仕事などが出来る方、出来ない人も好きになる広報チームへどうぞ (松田)

☆受付の横の壁に飛行船から撮影された住吉教会の写真が掛けてあります。
なかなか見られない景色ですから、ぜひご覧下さい。

「すみよし」第 176 号

発行日: 2008.12.25

編集・発行広報チーム

編集責任者: 橋本光子

発行所: 神戸市東灘区住吉宮町

2-18-23

カトリック住吉教会

TEL: 078-851-2756

FAX: 078-842-3380

<http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp>

製版・印刷 信徒有志



目次